

こどもの病気やけが

こどもは、感染症にかかったり、やけど、けが、誤飲などの事故にあったりすることも稀ではありません。いつもこどもと接している保護者が、「様子が普段と何かが違う」「どこかおかしい」と感じたときには、よく、こどもの状態を観察しましょう。心配な点がある場合には、かかりつけ医に相談しましょう。

●急に熱が出たり、下痢をしたなど、こどもの具合が悪い?と感じたら、最初に健康観察をしてみましょう

観察のポイント



- 食べる** いつも通りにごはんを食べたり、赤ちゃんはおっぱいやミルクを飲んでいますか。
- 寝る** 夜や昼寝の時間に、いつもと同じように眠れていますか。苦しくて眠れないといった様子はないですか。
- 遊ぶ** いつもと同じように遊んでいますか。機嫌がよく、活気がありますか。いつものおもちゃに興味を持てますか。
- 出す** うんちやおしっこ回数、量、様子はいつもと変わりないですか。おしっこが長時間出ないようなことはないですか。

※すべてにチェックが入れば、おうちで様子を見てもいいでしょう。心配だったり気になることがあればかかりつけ医へ!

●こども医療電話相談

休日、夜間のこどもの症状にどのように対処したら良いのか、病院を受診した方が良いのかなど判断に迷った時は、小児科医師や看護師から、症状に応じた適切な対応の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けられます。

小児の「急な病気」や「けが」は…

携帯電話やプッシュ回線(笠置町・南山城村等を除く)からは **『#8000』** または **075-661-5596** (全ての回線・府内全域で利用可)

- 対象/府内に住む15歳未満のこどもや家族等
- 相談時間/午後7時~翌朝8時 ※土曜日(祝日・年末年始を除く)は午後3時から翌朝8時
小児科医・看護師の専門的対応や育児相談も可能

救急の電話相談窓口救急安心センターきょうと 24時間365日

携帯電話やプッシュ回線(笠置町・南山城村等を除く)からは **『#7119』** または **0570-00-7119** (全ての回線・府内全域で利用可)

- 看護師等がアドバイス ●医療機関も案内 ●全年齢で相談可

●医療機関への受診について

呼吸が苦しそう、ぐったりしている、何度も吐く、けいれん、意識を失うような症状が見られた場合には、必ず医療機関を受診しましょう。医療機関を受診する際には、こどもの症状、その変化、時間をメモしておきましょう。また、親子健康手帳にはこれまでの重要な記録があるので、必ず持参しましょう。

記録のポイント

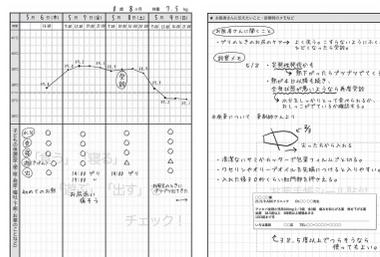
(病院に行く前に、メモや写真、動画など、症状を記録したものが役立ちます。)

写真・動画で記録する

せきなどは動画で撮影すると、様子がわかりやすくなります。発疹や便(オムツ)などは、写真に撮っておきましょう。お薬手帳に記録することもGood! SNSのメッセージやイラスト送信機能、熱型表のアプリなども便利です。

グラフ・メモで記録する

熱の高さは医師がみやすいよう、折れ線グラフに表しましょう。鼻水やせき、嘔吐、便、発疹などの症状は、簡条書きでメモを。既往症についても触れておくとよいでしょう。



※引用・参考: 子どもと医療(ホームページ)



お役立ちウェブサイト

●京都健康医療よろずネット

京都府の医療機関医療情報検索サイトです。

トップページの「小児科を探す」をクリックすると、府内の「今、小児科が受診できる病院」を検索することができます。事前に、電話で問い合わせの上、受診をしてください。



●(公社)日本小児科学会

「こどもの救急」ホームページ

こどもの病気やけが、事故の予防、応急手当、心肺蘇生法についてWEBでご覧いただけます。



こどもの事故の予防

こどもは、運動機能などの発達とともに、いろいろなことができるようになり、遊びや活動を通してたくさん力を身につけていきます。一方で、起きやすい事故もあり、大人がヒヤヒヤと感ずることもあります。こどもの「やってみよう」という興味や探究心を大切にして、様々なことにチャレンジさせてあげられるよう、発達過程の中で、いつ頃、どの様な事故が起こりやすいか知り、安全の対策をとりましょう。

●こどもの発達と起こりやすい事故

発達 の 目 安	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	
		首がすわる 手足をバタバタさせる		離乳食を始める 手を伸ばす 寝返りをうつ 口の中にもものを入れる		一人座り	ハイハイをする	指で 物をつかむ		つかまり立ち	一人歩き 走る スイッチ・ ダイヤルをいじる	階段を登り降りする その場でジャンプ 高い所へ登れる					
主な 起 こ り や す い 事 故	窒息・誤飲	<p><就寝時の窒息事故> ・うつぶせて寝て、顔が柔らかい寝具に埋もれる (硬めの布団等を使い、仰向けに寝かせる)</p> <p>・パン、お菓子、ナッツ類、ブドウ、ミニトマトなどの食品が のどにつまる ・たばこ、医薬品、化粧品、洗剤、コイン、ボタン電池、磁石など の誤飲</p>															
	水まわりの事故	<p>・入浴時に大人が目を離して溺れる</p> <p>・浴槽や洗濯機に 落ちる(残り湯をしない)</p> <p>・プール、海、川などでの事故</p>															
	やけど	<p>・大人が子供を抱いたまま、熱い飲料をこぼす ・みそ汁、カップ麺、電気ケトル、ポット、炊飯器、アイロン、暖 房器具や加湿器の蒸気でのやけど</p> <p>・ライター、マッチなどによる火遊び(こどもの手の届くところに置かない)</p>															
	転落・転倒	<p>・大人用ベッドやソファ、抱っこひも、ベビーカーなどから落ちる(出来るだけベビーベッドで寝かせ 寝かせるときは柵を上げる) ・椅子やテーブル、階段からの転落、段差での転 倒</p> <p>・ベランダ、窓からの転落</p>															
	車 自 転 車 関 連 の 事 故	<p>・座席からの転落(チャイルドシートを必ず使用する) ・車内での熱中症</p> <p>・車のドアやパワーウィンドウに挟まれる事故 こども乗せ自転車での転倒</p> <p>・飛び出し事故(手をつないで歩く)</p>															
	挟 み 切 る ・ そ の 他 の 事 故	<p>・誤って上からものを落とす</p> <p>テーブルなど で打撲</p> <p>・カミソリ、カッター、はさみなどの刃物やおもちゃでのけが</p> <p>・キッチン付近で包丁、ナイフでのけが ・ドアや窓で手や指を挟む ・歯磨き中に歯ブラシでの喉突きなどの事故</p>															

◎こどもの病気やけが、事故の予防WEBサイト

こどもの病気やけが、事故の予防、食べ物などのものがのどにつまった時の応急手当、心肺蘇生法については、こちらからもご覧いただけます。

母子健康手帳
情報支援サイト



◎消費者トラブルで困った時は「消費者ホットライン」

「188」(全国共通ダイヤル) (最寄りの消費生活相談窓口につながります
製品や食品による事故の相談が可能です。)